

令和5年度 入学試験問題

第1時限

(9時30分～10時15分)

国語

(注 意)

- 1 「始め」の合図があるまで、この表紙以外のところを見てはいけません。
- 2 問題用紙は、8ページで、問題は5問です。
- 3 「始め」の合図があったら、まず解答用紙に受験番号・氏名などを記入し、次に問題用紙のページ数を調べて、異常があれば申し出なさい。
- 4 答えは、必ず解答用紙に記入しなさい。
- 5 印刷がはっきりしなくて読めないときは、だまって手を挙げなさい。問題内容や答案作成上の質問は認めません。
- 6 「やめ」の合図があったら、すぐに筆記用具をおき、解答用紙は裏返しにして、試験官の指示に従いなさい。

都城東高等学校

問一 波線部1・4の外来語の意味として最も適当なものを次の中からそれぞれ一つずつ選び、ひらがなを適切な漢字に直して答えなさい。

- 1 かてい けいけん かこう せいちょう
4 こうじょうしん ゆうえつかん じそんしん しいよく

問二 波線部2・3・5のカタカナを漢字で答えなさい。

問三 【I】・【II】・【III】に入る語として最も適当なものを後からそれぞれ一つずつ選び、番号で答えなさい。

- 【I】 1 たとえば 2 また 3 つまり 4 ただし
【II】 1 かつ 2 なお 3 むしろ 4 では
【III】 1 やはり 2 しかし 3 なぜなら 4 だから

問四 傍線部Aとあるが、それはなぜか。その説明として最も適当な記号で答えなさい。

- A 失敗を恐れて自分のやり方を探そうとすることなく、助言の方が正しいと納得する癖がつき、それが自信になるから。
I 自分の力不足を責めたり、自分に適したやり方を自分でつかむ機会を失うことになっただろうから。
U できないと言ったことを自覚しないで、助言者を逆恨みしたりあてにすることになったりするから。
E やり方を自分で探す事をせず、教えてもらった方法しか身に付けることができない人間になってしまったから。
オ 助言者の言うことが身に付くまで何度もやり直しをさせられ、多量の文字数で書くと言う努力が無駄になったから。

問五 傍線部Bとあるが、これは筆者が人間をどのようなものと捉えているからか。それを示している部分を十八字以内で書き抜きなさい。

問六 傍線部Cとあるが、言葉を相手の感情に届くようにするためにどうすればいいか、空欄に指示された字数で書き抜き説明しなさい。

- (1、十一文字) 立場から正論を振りかざすと、(2、七文字) 相手を支配し傷つける人間だと警戒されてしまうので、相手が(3、十五文字) という納得感があると思われるような関係性の中で相手に言葉が届けられるようにする。

二 次の小説を読んで、後の問いに答えなさい。

汽車はその時分には、もう安々と隧道を迂りぬけて、枯草の山と山との間に挟まれた、或貧しい町はずれの踏切に通りがかかっていた。踏切の近くには、いずれも見すばらしい葦屋根や瓦屋根がごみごみと狭苦しく建てこんで、踏切番が振るのであるう、唯一旒のうす白い旗が【I】暮色を揺っていた。やとと隧道を出たと思う——その時その蕭索とした踏切の柵の向こうに、私は頬の赤い三人の男の子が、目白押しに並んで立っているのを見た。彼等は皆、この曇天に押しすくめられたかと思う程、揃って背が低かった。そうして又この町はずれの陰惨たる風物と同じような色の着物を着ていた。それが汽車の通るのを仰ぎ見ながら、一斉に手を挙げるが早い、いたいな喉を高く反らせて、何とも意味の分らない喊声を一生懸命に迸らせた。するとその瞬間である。窓から半身を乗り出して例の娘が、あの霜焼けの手をつとのばして、勢いよく左右に振ったと思うと、【II】心を躍らすばかり暖かな日の色に染まっている蜜柑が凡そ五つ六つ、汽車を見送った子供たちの上へばらばらと空から降って来た。私は思わず息を呑んだ。そうして刹那に一切を了解した。小娘は、恐らくはこれから奉公先へ赴こうとしている小娘は、その懐に蔵していた幾顆の蜜柑を窓から投げて、わざわざ踏切まで見送りに来た弟たちの労に報いたのである。

暮色を帯びた町はずれの踏切と、小鳥のように声を挙げた三人の子供たちと、そうしてその上に乱落する鮮やかな蜜柑の色と——すべてが汽車の窓の外に、瞬く暇もなく通り過ぎた。が、私の心の上には、切ない程はつきりと、この光景が焼きつけられた。そうしてそこから、或得体の知れない朗らかな心もちが湧き上って来るのを意識した。私は昂然と頭を挙げて、まるで別人を見るようにあの小娘を注視した。小娘は何時かもう私の前の席に戻って、相変だらけの頬を萌黄色の毛糸の襟巻に埋めながら、大きな風呂敷包みを抱えた手に、しっかりと三等切符を握っている。

(出典：芥川龍之介『蜜柑』)

- ※1 一旒……一枚。 ※2 暮色……夕暮れの景色。 ※3 蕭索……寂しい様子。
※4 陰惨……暗くむごたらしい様子。 ※5 幾顆……いくつかの。何個かの。 ※6 昂然……自信に満ちて意気の盛んなさま。

問一 波線部1～5の漢字の適当な読みを、ひらがなで記しなさい。

問二 傍線部A・Cの意味として最も適当なものを、次の選択肢からそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

- A「目白押し」
ア 寒さに震えて縮こまっている様子。
イ 困り果ててぼつんと黙っている様子。
ウ 小躍りしながら喜んでいる様子。
エ 人や物が集まって込み合う様子。

問四 傍線部Cの意味として最も適当なものを、次の選択肢から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア まっすぐで質実な人が仁に近い
- イ 豪快な人はまっすぐな人が多い
- ウ 素朴こそ一番である
- エ 仁義こそ人の持つべき姿
- オ まっすぐな人は人の気持ち理解できない

問五 傍線部Dの口語訳として最も適当なものを、次の選択肢から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 仲間意識が強く、人情味ある人物である。
- イ 胸を張り、堂々とした生き様を培うことこそが人として重要なことであり、尊敬されるべきである。
- ウ 清潔感に溢れ、気品ある者がいつの時代にも求められる。
- エ 生まれつきもっている、清らかな性質なんだろう、こういう者こそ尊ばれなければならない。
- オ 宿の主人に感謝の気持ちを持ち、それを伝える手段がわからない。

問六 この作品に出てくる「仁」の意味について最も適当なものを、次の選択肢から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 親しみや慈しみの心。それを兼ね備えた者。
- イ 知能が高く、言語を保有した生物。二足歩行。
- ウ 人知を超えて優れた尊い存在。特に仏など。
- エ 軍隊を並べて戦いに備える部隊。その配置。

問七 次の陰暦は何月を指すか。選択肢の中からそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

- | | | | | |
|----------|------|------|-------|-------|
| (1) 「弥生」 | ア 二月 | イ 三月 | ウ 九月 | エ 十月 |
| (2) 「師走」 | ア 一月 | イ 十月 | ウ 十一月 | エ 十二月 |
| (3) 「皐月」 | ア 五月 | イ 七月 | ウ 八月 | エ 十二月 |

問八 次の歴史的仮名遣いで書かれた語句を、現代仮名遣いに書き変えなさい。

- (1) ひたひ
- (2) てふてふ
- (3) こゑ
- (4) かうべ
- (5) かむなづき

五 あなたを干支に例えると、どの動物に近いと思うか、後の条件に従って解説しなさい。

条件

- (1) 二段落構成にして、一段落目にはあなたが思う干支を明示し、二段落目にはそう思うのはどのような経験や実感がもとになったのか具体的に書くこと。
- (2) 十一行以上、十三行以内で書くこと。(句読点を含む。)
- (3) 題名と氏名は書かないこと。
- (4) 正しい原稿用紙の使い方をすること。
- (5) 小数点を伴う数字は算用数字で書き入れ、それ以外は漢数字で書くこと。
- (6) 文体は敬体(です・ます)ではなく、常体(だ・である)で書くこと。